

盗癖のある児童の指導事例

土 田 壮 一*

非行に走る児童の中には、家庭の複雑な人間関係が要因として働いている場合が多い。この報告は、そのような児童と両親に対して、学級担任と協力しながら指導を試みた実践の記録である。

I はじめに

家庭内での複雑な問題に対して、私達教師が、どこまでかかわることができるかは大きな課題である。Kの母は継母であり、Kに対しては幼児から食べ物を満身に与えないなどがあって、Kは家族の一員として認められず、いつも孤独な生活を送っている。また、学校でも、クラスの友達から疎外され、休憩時間でもひとり淋しく読書をしたり、友達の遊びをぼんやりと見つめているKである。やがてKは、食物をくり返し盗むという行為に走ったが、以下はKとその両親に対する指導の経過をのべたい。

II 児童の概要

1 対象児童 小学校5年 K 女

2 本人についての状況

(1) 家 族

父	45才	会社員	小学校卒	母	37才	家事	高校卒
兄	1.5才	〇〇電力学園		妹	3才		
弟	4才	保育園児					

父：性格は、おとなしそうであるが、面接を通しての判断によると、「はき」がなく、消極的なところがある。後妻に対しての遠慮があるのか、兄とKに対しては、関心がない。Kによると、ときどき暴力をふるうことがあるという。

母：弟、妹と、先妻の子ども達との差別がはなはだしい。近所の人たちと、あまり交際はしていない。

兄：小学校・中学校在学中は、成績良好。Kと同じく、食べ物をあまり与えなかった。母のさいふから、お金を盗み、食べ物を買ったことが3回程あった。明るさがなく、友達もあまりいなかった。

(2) Kの生育歴

Kは4才のときから、今の母親に育てられた。保育所時代から、つねに「うそ」を平気でいう子ども

* 三条市立月岡小学校

であった。保育所時代も今と同じく明るさがなく、人からあまりかわいがられなかったという。

- (3) 諸検査 小学校4年, 50年1月・標準学力テスト(算) 偏差値 48
 " 50年5月, 教研式知能検査 偏差値 47

(4) 学業成績

(表1) 学業成績(5段階)

教科	国	社	算	理	音	図	家	体
評価	4	3	2	3	3	3	3	2

おちついた学習ぶりというより何か、元気がない、明るさのない学習態度である。基礎的な能力が身につけているが、応用力にかける。文字をしっかりときれいにかく。

(5) 行動の記録

子どもらしい明るさがなく、ほとんど友達がいない。家庭の事情がもとで人をごまかしたりすることがある。

(6) 出席状況

3年～5年の1学期まで無欠席。顔色が悪く、栄養のバランスのせい、からだは細く体育など、はげしい運動になると途中で休む。

(7) 体格・視力

(表2) 身体状況

学年	身長	体重	胸囲	座高	視力	
					右	左
3年	121.2	20.4	58.5	67.3	0.1	0.2
4年	126.3	23.8	60.5	69.2	0.1	0.2
5年	128.6	23.6	60.0	70.3	0.08	0.1

- 食べ物の好ききらいはない。
- 医師の診断では栄養状態を除いて悪いところがないとのことである。
- 視力が弱く、2年の2学期より眼鏡をかける。母親は眼鏡をかけさせる

ことを反対したが、担任の強い指導で、しぶしぶ賛成した。夜、明るい電気をつけて勉強するのを母親が反対するので、Kは、学校から帰ると、夕方、暗い所か小さい電気のもとで勉強するので視力が弱くなったといわれている。

(8) 友人関係

小学校に入学して以来、特に遊ぶ友達がいない。家でも、あまり弟や妹と遊ぶことはない。友達の家に遊びに行くことは、母親が嫌ったという。Kが友達の母親に家のことをしゃべったり、友達の母親から、いろいろききだされるのがおそろしいからだという。

Ⅲ 指導の方針

Kを非行からたちなおさせるには、両親と面接を通して、Kに対しての考え方、育て方などを率直に聞き、それに対して話し合うことによって、お互にKの家族の状態をより深く理解し合う。

Kに対しては、面接や遊びを通して、教師とKとの心のふれ合いをだいにしながら、Kの変容をみつめ、生き生きとしたKの生活を期待していきたい。

Ⅳ 実践の経過

(1) 3年生

朝10時半頃から11時頃になると、Kはときどき泣きだす。友達は「先生、Kさんはまた泣いているよ。」TとYが担任の所へ報告にくる。T「きょうも朝はんを食べてこなかったの」。このようにKは、朝はんを食べてこないことが度々ある。クラスの子も達は、「先生、Kさんはどうして時々泣くの、おなかでもいたい。きっと病気なんだね。」クラスの子も達は、Kの家庭の複雑さを知らないから、時々泣くのを病気と信じているので、担任としてはホッと胸をなでおろしている。でも、自然にKの家庭の事情をクラスの子も達が知ったら、Kに対してどんな目で見られるだろう。Kはどんな気持ちになるだろう。担任は、毎日のように自分のパン、牛乳をKに食べさせる。Kは自分に与えられた給食と担任からもらう給食を食べ、ニコニコしている。このように笑顔のKを見ると、なぜ両親はKに食べさせないのだろう、と涙ぐむことがある。学習参観に学校へ来るよう両親に連絡すると、用のため、欠席するからと連絡があり、電話で両親に、Kに朝はんを食べさせるよう指導すると、母親は、「毎日食べさせています。3年生になって1度も食べさせないことはありません。Kは、先生に、うそをいっているのです。」と、母親はいう。

母親の話と、Kの話は、平行線をたどるばかりである。両親は、Kが3年生のとき、1回も参観日には出席しなかった。家庭を訪問しても両親は、ただKには、朝はんを十分食べさせますとのことで、食べさせないということは、いわなかった。

(2) 4年生

8年生の時と違って、腹がすいても、泣くことがなかったが、午前の体育の時間や、マラソン、などはげしい運動になると休む。理由は、頭が痛いとか、風邪を引いているなどである。担任は、Kに朝はんを食べてくると聞くとだまってしまう。担任が自分のパンをやると、いりませんといって食べない。

5月の家庭訪問で、Kの両親から次のような話を聞く。

<p>T 毎日、朝はんを食べますか。</p> <p>母 「ハイ」 毎朝、たくさん食べます。</p> <p>父 けさも、食べました。</p> <p>母 食べないと、何回も食べなさいといひます。</p> <p>母 Kは、私のサイフからお金をとりました。</p> <p>T いつですか。</p> <p>母 いつだったかわすれました。</p> <p>T いくらでしょう。</p> <p>母 1,000円ぐらいです。</p>	<p>T そのお金は、どうしたのでしょうか。</p> <p>母 わかりません。</p> <p>K Kさんにききましたか。</p> <p>母 聞いても、とらないといひます。</p> <p>母 きっと、お店やさんから、食べ物を買ったのでしょうか。</p> <p>T Kさんは、とったのでしょうか。</p> <p>母 サイフの中にもありません。</p> <p>母 きっと、とったのです。困りますKには。</p>
---	--

母親は毎朝、たくさん食べます。食べないと何回も食べなさいといひているが、「うそ」をいっているようすである。お金をサイフから盗んだといひているが、商店に問い合せてみると、Kは物を買ったようすもない。先妻の子は、にくいのでしょうかと担任は、私に涙ぐみながら話をしてくれた。

(3) 5年生

5月、6年生の教室でパンが無くなったという事件が3回あった。子ども達が給食の時間に食べ残し

た、パンを家で食べるということで、カバンの中に入れておいたのが、無くなったのである。このような事件が、5年生の教室でも、5月に、10回程あった。いつの間にか、5年生の子ども達の中から、パンを盗すんだのは、Kでないかといううわさが、広がった。担任は、子ども達に、Kではないと強く主張した。子ども達は納得したが、担任は、Kでなければよいがと心から祈った。パンを無くしたという子ども達は、パンの余りをゴミ箱にすてたり、家に持って帰るつもりだったのに、全部食べてしまって、カバンの中に入れておいたと思って感違いしたのではないかと担任は思った。いや、そうであって欲しい。Kでなければよいが、何かの間違いであって欲しいと願った。

・5月〇日の放課後、5年生のA夫が帰宅しようと思って教室へ、カバンを取りに行ったら、KがY夫のカバンの中から、パンを取り出そうとしたのを発見した。KはA夫に見られたので、パンをY夫のカバンの中に入れた。A夫は、すぐ担任に報告すれば良かったのだが、翌日の放課後になって報告した。

担任からKと面接するようにと依頼があった。(面接時間5分)

T Kさん、朝はん食べてくる。

K (沈黙、下をむいている) 1'

T きょう、Y夫のカバンの中からパンをとろうとしたそうだが、ほんとかな。……沈黙40"

A夫を見たというのだが……沈黙30"……

A夫を見たというのだが、まちがいか

……沈黙30"……

K 私は……(声にならない)10"……

T どうしたの……沈黙20"……

K 私のパンです。おひるに食べなかったの

T うん、あなたのパンだね。

K はい (小さな声で)

T わかりました。

面接している時間、Kは顔色をかえず平ゼンとしている。あくまでも、自分のパンであるということと、朝はんの事をきくと、無言の状態である。やはり、Kは朝はんを食べてこないようである。Kとはじめての面接であるから、面接時間を短時間にした。

・5月〇日

5・6年が6校時に運動会の練習時間であった。Kが頭痛だから体育を休ませてくださいと、担任に申しでたので、保健室で静養させた。途中、私が保健室へ行って見ると、Kはいない。Kをさがしに行ったら、教室から出てきた。Kは頭痛がなおったから体育のしたくをしてきましたといい、運動会の練習に参加した。練習がおわって子ども達が帰宅の準備をはじめたら、突然、B夫、C夫は大きな声で、パンがないとさわぎだした。またやられたかと担任は思った。でも、Kを犯人ときめつけるわけにいかない。このように、特に放課後パンがなくなる。

・5月〇日 午後8時40分～50分、Kは3日間、運動会の練習を休んでいる。

T Kさん、どこが悪いの……沈黙20"……

かぜをひいたの。

K はい。

T 顔色が悪いね、家で薬を飲んできたの。

……沈黙20"……きょう朝はん食べてきたの。

……沈黙20"……食べてこなかったの。

K はい。

T どうして食べてこなかったの。

K 食べたくなかったから (小さな声で)

T 食べないと体を悪くするから食べてきなさい。

……沈黙……わかりましたね。

K はい。

第1回目の面接より、素直に答えてくれたが、うそをいっているようだ。Kは、給食を残さず食べているし、風邪を引いているようすもなかった。

・5月〇日 運動会の当日、11時頃腹痛だからといって保健室で静養させる。熱をはかったら、平熱であり、別に下痢をしているようすもないので、Kにきいたら、朝おそくおきて朝はんを食べてこなかったとのことである。

・6月〇日 家庭訪問

3日間、体育を休んだ件と運動会当日、朝はんを食べてこなかったことについて両親と面接する。

<p>T 3日間、Kさんがからだのぐあいが悪かったのですが、気づかれませんでしたか。</p> <p>母 そんなことは、なかったようです。風邪をひいたとか、腹痛などいいませんでした。</p> <p>毎朝、ごはんを食べて学校へ行くのですが、</p> <p>T 運動会の当日、朝はんを食べてこなかったと</p> <p>母 うそです。食べて行きました。</p>	<p>父 うん、食べました。</p> <p>母 おかわりしました。先生に、うそをいっているのです。朝はんを食べない日はありません。</p> <p>母 うそをいってこまります。</p> <p>私が食べさせないようで……………</p> <p>父 困ったKです。うそをいって</p> <p>母 そうです。</p>
--	---

はじめての面接であったが、担任でない私に、母親はよく話をしてくれたが、面接を通しての感じでは母親の方がうそをいっているようである。父親は、母親のいうことを同調するように、うん、うんと母親のいうことを聞いている。

・6月〇日

Kの父親から電話があり、カバンの中から、パンが2まいでできたので、このパンをどうしたのかと聞くと、先生からもらったという。

・6月〇日 呼び出し面接 —3分—

<p>T Kさん、きのうカバンの中にあつたパン。どうしたの。</p> <p>K Sさんから、もらいました。</p> <p>T うん。</p>	<p>K Sさんが、食べたくない、といって私にくれたのです。</p> <p>T Sさんからね。</p>
--	---

面接がおわって、Sにきくと、Kにパンをやらなかったという。Kは、うそをいっていることがわかった。

・7月〇日

Kは冷蔵庫の中から、ジャムとバターをとって、ポケットに入れる所をT先生にみつかる。

・7月〇日 呼出し面接

<p>T Kさん、きのう、冷蔵庫の前で何をしていたの。……沈黙20"……</p> <p>K そうじをしていました。……沈黙20"……</p> <p>T そうじね……</p>	<p>K 冷蔵庫の前を、ふいていました。</p> <p>T そう</p> <p>K (突然、大きな声で)私は何もしません。</p>
--	---

・7月〇日 終業式の後、Kを呼び、夏休みは両親のいうことをよく聞き、ごはんを食べるんですよと、指導する。Kにとっては、夏休みは苦しいだろう。満足に食べ物を与えられず、親子の対話もなく……

・9月〇日 (5分)面接

T Kさん夏休み中、おかあさんのいう事をき
きましたか……沈黙10"……

T 三度の食事をしたの。

K ときどき食べました。

放課後、家庭訪問をする (10分)

T 夏休み中、Kさんはおかあさんのいうこと
をよく聞きました。

母 トランペットの練習だといって家を出るので
す。Kの友達に聞くと、きょうはトランペット
の練習がないということです。1時頃帰るのです。

母 私のいうことなんかききません。

T おひるはどうするんでしょう。

父 そうです。

母 あまり食べません。友達の家で食べるんでしょう。

母 私が呼んでも返事はしませんでした。そし
て私をさけています。うそをいうので困まり
ました。

T 朝はんは食べますか。

T うそをね。どんなことでうそをいうのですか。

母 食べないので私から、お願いして食べてもら
います。

面接中は、母親は一方的にしゃべり、教師の話聞きこうとしない。父親はだまっている。

・9月〇日 Kと面接する。(ソバや菓子を食べながら) ~30分~ 要約

Kは夏休み中、朝は遅く起きると食べさせられなかったり、またおかわりをしてもらえなかったなどということがあったという。そして、今まで5回ほど学校でパンをとったことや、もう人の物はとらないことなどを涙ながらに話してくれた。

<ソバや菓子を食べているとき、おいしそうなようすをみると、家では食べ物を十分に与えられないのだと思った。Kは、ごちそうさまでしたと大きな声で礼をいって帰った。>

Ⅵ おわりに

実母が我が子を愛するような献身的・非打算的な愛が継母にはないといわれている。面接の中でも、Kがかわいいとか、どのようにしたら盗みをやめさせることができるかという相談がなかった。また、うそをいったり親のいうことをきかないKを、民生委員や児童相談所へ連絡したらいかげんかでしょうと、相談をもちかけられた。これが実母であつたらこのような相談を安易にするだろうか。Kに対して愛などはなく、何をしても無関心で、自分の子どもではないという考え方である。ましてや食べ物を余り与えないことは、母親にとってかんたんなことであり、それが盗みまでするのは自然のことである。母親の考え方がかわらない限り、Kの盗みや片よった性格がなおらない。私としてはなかなかむずかしいことであるが、Kの為に母親と出来る限り面接し、Kに対しての考え方、育て方をかえてもらうよう努力している。家庭で親子の対話がないKに対して、せめて学校内では1日ひとことの話しかけ、また、遊びや面接などを通して、教師とKとの心のふれ合いを大切にしている。

2学期になって、盗みをしたということは聞かない、これがいつまでも続くよう祈っている。